

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@maff.go.jp)



四国山の日

No.1157 2016年8月号

## JICA・四国森林管理局合同 国際シンポジウム

7月13日、四国森林管理局はJICAと合同で「ケニアと日本における公有林の生態系保全」を主題とした国際シンポジウムを開催しました。

【詳細は2頁】







# JICAと四国森林管理局が 国際シンポジウムを開催

〈四国森林管理局〉

七月十三日、四国森林管 森林公社職員は全員が地方

理局は、JICAと合同で 組織に所属し、日本でいう

「ケニアと日本における公 ところの森林管理局、森林

有林の生態系保全」を主題 管理署と同様の組織に所属

とする国際シンポジウムを しています。

開催しました。 意見交換の内容として、

シンポジウムには、ケニ ケニアにおける森林被害に

ア森林公社職員など林木育 対する質問では、アフリカ

種センターが実施するJI ゾウによるものが多いが、

CAプロジェクトの研修生 食害ではなく移動による踏

六名のほか、四国森林管理 みつけにより倒れるものが

局、高知大学、高知県庁、 多いこと。これに加えて、

牧野植物園などから約四十 放牧されているヤギによる

名が参加しました。ケニア 食害が大きく、ヤギ対策と

して樹木の幹の周囲に枝等

を巻き付けていること。ま

た最近、ケニアで植林が始

まったセンダンに係る質問

では、日本では成長の早さ

に注目したのに対し、ケニ

アでは乾燥への強さに着目

したこと、また、その収穫

は七年〜一五年が想定され

ていること。そして、ケニ

アの森林管理における市町

村の役割に係る質問につい

ては、ケニアでは二〇一〇

年の憲法改正により四十七

の州政府が設置されたばか

りであり、地方公共団体は

整備途中であるため、森林

公社が支援を行っている

の説明がありました。

また、ケニア側からの意

見として、森林率が高い日

本において木材輸入が高い

理由や、特に私有林におけ

る公益的機能の発揮のため

の実効的な施策等に係る質

問がありました。その他、

日本はこれまで

努力して立派な

森林資源を育て

てきたが、今後

は、林業を担う

人材にもっと視

点を当てるべき

ではないかとの

意見が出されま

した。

シンポジウム

の後、JICA

プロジェクト研修生を招い

たホームパーティーが催さ

れました。

コミュニケーションなら

ぬ、ノミネーションで、

夜の国際シンポジウムも大

盛況となりました。



夜の国際シンポジウムにて

森林教室の様子



六月二十五日、香南市立野市小学校の第一〇回環境フェスティバルが催された。

親子行事  
『野市小学校 環境フェスティバルで出前講座』  
〔技術普及課〕

その中で局スタッフによる

森林・木工教室を行いました。

このイベントは、「環境に関わる学習を児童が保護者と共に学んだり、体験することで、環境に対する関心を高めること」を目的として開催されており、四国森林管理局の参加は三回目となります。

ります。多くの講座の中から、今回は、「木工クラブを通して木材のよさを知り、森林の役割について考える。」をテーマとし、二年生から四年生の二十五名の児童が参加してくれました。

まず、「森林の働き」についてクイズ形式で児童達に出題しました。その後、クイズの内容に関連して、ペットボトルを利用して、ペットボトルを利用した浸透実験を行いました。

山の土と、砂をつめた二つのペットボトルに、上から水をかけていくと、砂の方から一気に水が流れ出たので、「オース」と歓声が起きました。

次に、一番堅い木（コクタン）と一番柔らかい木（バルサ）と身近な木製品エンピツが水を張った水槽に浮かるか、沈むかを見てもらい、木でも沈む種類があることを理解してもらいました。児童達に実際に目で見て試してもらうことで、関心をとても引いたように感じました。

木工教室は、一四種類もの作品に分かれていましたが、ボランティアの方を含めた八名での指導と、父兄の協力により、頑張った全員が時間内に素敵な作品を完成することができました。

早く完成した子は、さらに、定番の工作「ジージーゼミ」を作製し、作製に時間一杯かかった子には完成品をプレゼントしました。「ジージーゼミ」は木工作品同様にたいへん人気で、





ずっと鳴らして遊んでいました。また、余裕のある児童にはビンゴゲームで遊んでもらい、木のおもちやのぬくもりを感じてもらいました。

今回も、児童たちは最後まで熱心に話を聞いてくれました。これを機に「森林」にますます興味・関心をもつてくれることを願います。



⑧番  
夏になり暑くなりました。わたくしは野市小学校四年組です。  
わたくしがつかれたことは森林は空気がとてもきれいにしてくれる種類があるという「くがは」がありました。  
雨が多く暑くお仕事をがんばってくださいます。今日はありがとうございました。  
平成二十八年六月二十五日  
小学校四年組  
四国森林管理局のみな様

⑧番  
夏になり暑くなりました。わたくしは野市小学校四年組です。  
わたくしがつかれたことは森林は空気がとてもきれいにしてくれる種類があるという「くがは」がありました。  
雨が多く暑くお仕事をがんばってくださいます。今日はありがとうございました。  
平成二十八年六月二十五日  
小学校四年組  
四国森林管理局のみな様



# 各地のたより

## 愛媛県との 林政協議会開催 〈愛媛森林管理署〉

七月十四日、愛媛県庁において、二八年度の愛媛県・四国森林管理局林政協議会を開催しました。  
開会にあたり、四国局木村業務管理官から「愛媛県の森林・林業政策の課題解決に向けて民国が連携協力をするようお願いする」との挨拶がありました。

四国森林管理局、愛媛森



林政協議会の様子

林管理署、愛媛県より取組の概要説明が行われた。後、愛媛県内の民国共通の検討課題である「主伐・再造林に向けた苗木生産」、「愛媛県内の木材安定供給」、「林業事業者等の担



い手対策」、「森林認証の普及」について、活発な議論を行いました。

最後にドローンの取組について、愛媛署丸田地域林政調整官が実物を見てもらいながら、操作方法と今後の業務への活用等について説明を行いました。ドローンについては県関係者の関心も高く、検討会等の開催を依頼される等、今後更に関係者が連携しより効果的な活用につなげていくことを確認しました。

**愛媛大学生への森林・林業現地説明会開催**  
 〈愛媛森林管理署〉

七月十五日、四国局と愛媛大学との連携協定の一環として、農学部森林資源学コース三回生二二名に對



挨拶する木村業務管理官

し、国有林の現地説明会を開催しました。

当日は天候にも恵まれ、四国局木村業務管理官から「本日の現地説明会が皆さんの進路や研究テーマの参考になれば幸いです」との挨拶がありました。

説明会では、あいなやま相名山国

有林二〇林班の森林整備事業（保育間伐活用型）の現場にて、丸田地域林政調整官が事業概要について説明を行いました。さらに請負事業体の（株）いぶきの白川部長から森林作業道の作設、伐倒、造材、

運材までの一連の作業について説明があり、実演ではスギ立木が伐倒される度に学生から歓声があ

がっていました。続いて、おもごやま面河山国

有林一二林班の面河

四国カルスト自然休

養林内に移動し、国

有林のレクリエーションの森制度について中井総括森林整備官より説明をうけ、自然休養林内の歩道を散策して、雄大な原生林と清流に触れてもらいました。

生産現場での造林作業見学



林整備官が説明を行うとともに、自動選別機による木材の選別・仕分け状況等について久万木材市場の成川社長から説明を受けました。最後に、（株）久万木材市場にて、国有林材の販売でも、川畑署長から入庁案内、本田森林技術指導



自然休養林内での説明



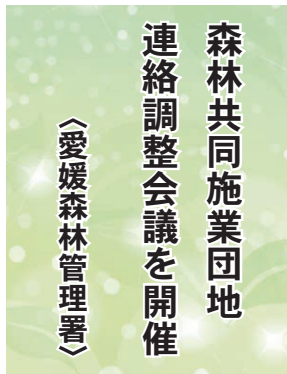
官から四国局の業務概要の説明を行うとともに、愛媛大OGの毛利技官から入庁後の体験談などの説明を受け、盛り沢山の内容となりました。

なお、今回の現地説明会の模様については地元新聞紙に掲載され、当署の取組

を広く県民にPRする良い機会になりました。



久万木材市場での見学



平成二七年、三月に締結した「赤羅木山・大モリ・

佐々連尾山地域森林整備推

進協定」に基づく森林共同施業団地の連絡調整会議を、七月二六日協定者の森林整備センター松山水源林整備事務所関係者、四国局及び当署関係者が参加して開催しました。



連絡調整会議の様子

この森林共同施業団地

は、当署土居森林事務

所部内の佐々連尾山国有林一〇四三林班(二九六ha)と隣接する水源林造成事業地(二〇〇ha)の合計二九六haを設定したものです。

会議では、昨年度

の実施状況について報告を行うとともに、本年度のそれぞれの事業計画及び今後の課題等について協議を行いました。

現地においては、森林共

同施業団地全体の区域確認と民有林側の森林作業道の計画路線の遠望を行い、来

幅員の確認状況



年度以降の線形について協議するとともに、本年度に開設中の森林作業道の現場において幅員やヘアピンカーブの作設状況等の確認を行いました。

本年度から二年目に入り、民有林・国有林それぞれに課題はありますが、お



互いが連携協議して少しづつでも事業を前進させるとともに、愛媛県内の民国連携のモデルとなるようにしていくことを確認しました。

### 年間を通した 森林環境教育 〈ふれあい推進センター〉

六月二十七日、愛媛県松野町立松野西小学校の四年生十八名を対象に、森林の働きや校庭にある樹木の名前や特徴を調べて、樹木名板や樹木の立て札を製作、設置することにより、樹木

への感心を持ってもらおう について説明しました。 じく、四年生十八名 樹木名板出来たよ

と、本年度第一回目の森林環境教育を実施しました。 説明の後、校庭で実際に生えている三十三種の樹木の観察をしました。生徒は、四万十川森林ふれあいセンターの活動内容について 樹木の前では、木の名前や説明をした後、大切な自然特徴について説明をうけた後、教室で、ヒノキの樹木名板に、ポスターカラーで科名と和名を書き、余白には、思いのイラストを描いて樹木名板を完成させました。出来上がった樹木名板は、児童の手で早速、校庭の樹木に取り付けられました。



校庭の樹木学習の様子

が、第二回目の森林環境教育として木工クラフト製作を行いました。 始めに、木材は軽くて丈夫なことや加工しやすいことから、いろいろな生活用品に使われ、私達の暮らしを快適にしてくれるすばらしいものであること、きちんと手入れをすれば千年以上もの耐久性のある建物もできることなど、木の良さや特性等について説明しました。 供達は、作りたいものを決め、一生懸命にミズメやヒ



七月六日には、同 刃物や道具を使つての自 由製作では、道具の使用方 法や製作時の注意点につい て説明をうけた後、パンダ、 カニ、タヌキ、ネコなどの かわいいサンプルを見た子 供達は、作りたいものを決

メシヤラ、ウツギなどの木の枝を使って木工クラフトづくり挑戦しました。慣れないノコギリやクラフトナイフ等を使っての作業でしたが、手作りの置物、ブローチ等を完成させました。

オリジナル作品を製作したことで、木のぬくもりや、素材としての木材の良さについて感じてもらえたのではないかと思います。今後の予定としては、「空飛ぶ種子」や「水の土壌浸透実



木工クラフト製作の様子

### 四国四県木材協会等 団体長会議が開催

〈愛媛森林管理署〉

七月二〇日、松山市内において、平成二八年度四国四県木材協会等団体長会議が開催されました。

各県担当者より平成二八年度の各県毎の新規・重点事業についての説明がありました。また、各県木材協会等代表から本年度の重点事業について、全国木材組合連合会の島田副会長から木材産業の中央情勢等について説明がありました。

四国局からは田口森林整備部長、吉良企画官、川畑署長が出席しました。

続いて情報交換に移り、各県毎の原木生産量、木材・木製品出荷額の現況や木材輸出状況など他県への問い合わせ事項等について報告

会議では、田口森林整備部長より平成二八年度の四国局の事業概要について、

がなされ、それぞれの報告

田口森林整備部長より四国局の事業概要説明



に対して活発な質疑応答が行われるなど有意義な意見交換の場となりました。来年度は、香川県で開催する予定です。